

## 新たな体験のために

小樽潮陵高校 普通科 2年 澤田実典

私は、アメリカでの異文化体験、生きた言語体験から、新たな価値観をつかみ取りたい。

私の住む街、小樽には、様々な国の方々が観光目的で訪れる。

私は観光名所のひとつである、小樽天狗山でスキーをするので、よく観光客の方々に話しかけられることがある。英語やつたない韓国語で、なんとかリフトの場所やチケット売り場などを説明したりするのだが、そこには毎度、喜びと悔しさがある。会話をするときには、文法が正確でなくても、語彙数が少なくても、身振り手振り、ジェスチャーで補えることが多い。伝えたいことが伝わるという部分については目標達成されているが、やはり、現役で英語を学ぶ身として、自分の伝えたいニュアンスを語彙や英語ならではの表現などの言語知識、言語感覚をもってより正確に伝えたいと思うのだ。

まずは、私の今までの英語コミュニケーション体験から述べていこうと思う。

小学生の時、天狗山でスウェーデンからの観光客の方と話した。

その頃は、あまり英語に触れる機会がなかった。もちろん今よりも知っている単語も少なく、思うように会話ができなかった。そのもどかしさがとても悔しかったのを覚えている。ただそれが初めての自ら働きかけた英語コミュニケーションであると同時に、今の私が英語に興味を持つ始まりだったのだと振り返る。

最近では、高校一年生の冬に、同じ天狗山でアメリカに留学中だという中国人の大学生とリフトと一緒に乗りながら会話をした。

自分が留学に行ってみたいことを話すと、彼女は私の英語の発音がとてもいいから大丈夫だと、言ってくれた。自分が普段練習するときに意識して気をつけていたところを、評価してもらったことがとても嬉しく、努力を続けるモチベーションになった。それは今までの経験の中で一番会話のラリーが続いて、一番楽しい英語でのコミュニケーションだった。

もちろん母国語でコミュニケーションを取るのも楽しいが、非母国語でコミュニケーションを取るのは、文法、単語、英語ならではの表現を覚えれば覚えるだけ、表現の幅が広がり、自分自身の成長がよく感じられる。

また、現在、英語は世界でもっとも広く通用する言語で、様々な国の人とコミュニケーションができて、その度に新しい刺激をもらえる。

そして、異言語で会話したり、授業でプレゼンテーションをするたびに、さらに英語を話せるようになりたいという向上心がうまれ、いつも私を成長させてくれる。

さらに私は、英語コミュニケーションに必要な、文化背景、習慣の違いを知りたい。なぜなら、相手にとっては、私が一人の関わったことのある日本人になるかもしれないからだ。その関わりの中で知らずのうちに、もし相手のもつ文化に配慮のない対応をしてしまったら、それが相手の日本人、日本に対するイメージのひとつとなるだろう。またその逆もいえる。つまり、その国の代表のような認識になる。そのため、異文化理解を深めることで、日本に対してのイメージをよりよくする力に少しでもなると思う。

現時点で私の就きたい職業は、教員である。私は授業の中で先生が経験した留学のエピソードや、海外での経験を聞くことで、留学や海外に対する興味が大きくなっていった。教員になり、日本の子どもたちに海外での経験を伝えることで、私と同じように興味を持って、自分の可能性を追求するきっかけづくりになれたらと思う。

また、海外の子どもたちとも関われる機会があれば、海外の子どもたちに日本のことを伝えたり、自分と同じように、海外の人とのコミュニケーションを楽しいと思ってもらい、国際社会の架け橋になりたい。

また、私には、誇りに思う日本文化がある。それは、日本無形文化遺産に登録されている、“松前神楽”だ。私は、松前神楽を継承する保存会に小学生の頃から現在も所属して、日々舞や楽を稽古している。披露の際には、地元の方だけでなく、海外の方にも見ていただいたりする。ただそのとき、松前神楽の歴史、舞の持つ意味などの紹介は、日本語で行われる。意味は分からずとも、魅力が伝わり、見てくれていたのだと思うと、魅力と誇りを再確認して、自分のライフワークのひとつとしてこれからも続けていきたい、歴史ある伝統を後世に繋いでいきたいという思いが日に日に大きくなる。

最後に、このように地域で伝えられているものに小さい頃から興味を持ち、慣れ親しんできた。そこで様々な文化に触れることで、自分の中にはなかった新しい価値観や、その文化の面白さに気づくことができた。それと同じように、今回、アメリカ・ロサンゼ

ルスという未知の場所で、新しい刺激を受けて、新しい文化体験をして、新たな価値観、視点の形成に繋がりたい。